

<福島県知事賞>

私達のキューピッド

南相馬市立小高中学校 3年 渡部 明歩

「税は偉い人のために払っているお金」今までの私はずっとうこう思っていた。私達には何の得もないと信じこんでいた。だから私は税に対して疑問しか無かった。そんな疑問しかなかった一年前、私の耳にある言葉がとびこんできた。

「税金は、工事にも使われています。」

?私の頭にはこの時、ハテナしかなかった。工事? どういうこと? 私の頭は混乱状態になっていた。その後くわしく調べた時私は、今までの自分がとても情けなく思った。もっと早く税の使い道を知っておけばよかったと後悔した。何でもっと早く教えてくれなかったのだろうという大人へのいらだちもあった。と同時に、知れてよかったという気持ちもあったような気がする。

八年前の二〇一一年三月十一日、東日本を中心とする大規模な災害が起きた。かの有名な東日本大震災だ。私が住んでいた街も地震、津波、原発事故で多くの被害があり、街はボロボロになった。私はこの時、「故郷が壊れる」という恐ろしさを初めて体感した。その故郷は今、復興が着実に進んでいる。少しずつではあるが一步一步、前進している。それでもやっぱり、悲しみというものは確実に存在する。一度故郷を失った悲しみは一生ついてくるのだ。それを私自身が望まなくても。

そんな悲しみと喜びが混ざった日々の中、一つの疑問が浮かんできた。「復興は何のお金で進んでいるのだろう。」と。そこで私は、復興について少し調べてみた。すると、意外な事実が分かった。復興にも税が使われていたのだ。こんなにも税に興味をもったのは初めてだった。とてもうれしかった。今まで税とは何に使われているのかも知らなかった私にとって、これはビッグニュースだった。税とは決して悪いものではなく、私達の日常、そして感情をも左右する大切なものだということを知った。税に初めて感謝した瞬間だった。

今まで私は、消費税をとられる、という事だけでも遺憾に思っていた。何故8パーセントもとられなければならないのか正直分からなかった。だが、私が知らないだけで本当は色んなところに税が使われていた。あそこにも、ここにも使われている、と考えると、税という仕組みはいいなと思ってくる。これから私は、大人になる。税をたくさん払うようになる。いやになることもあると思うが、そういう時はネガティブに考えるのではなく、ポジティブに考えようと思う。私はいいことをしている。もしかしたら、この税で誰かの人生を左右するかもしれないという責任感をもって。